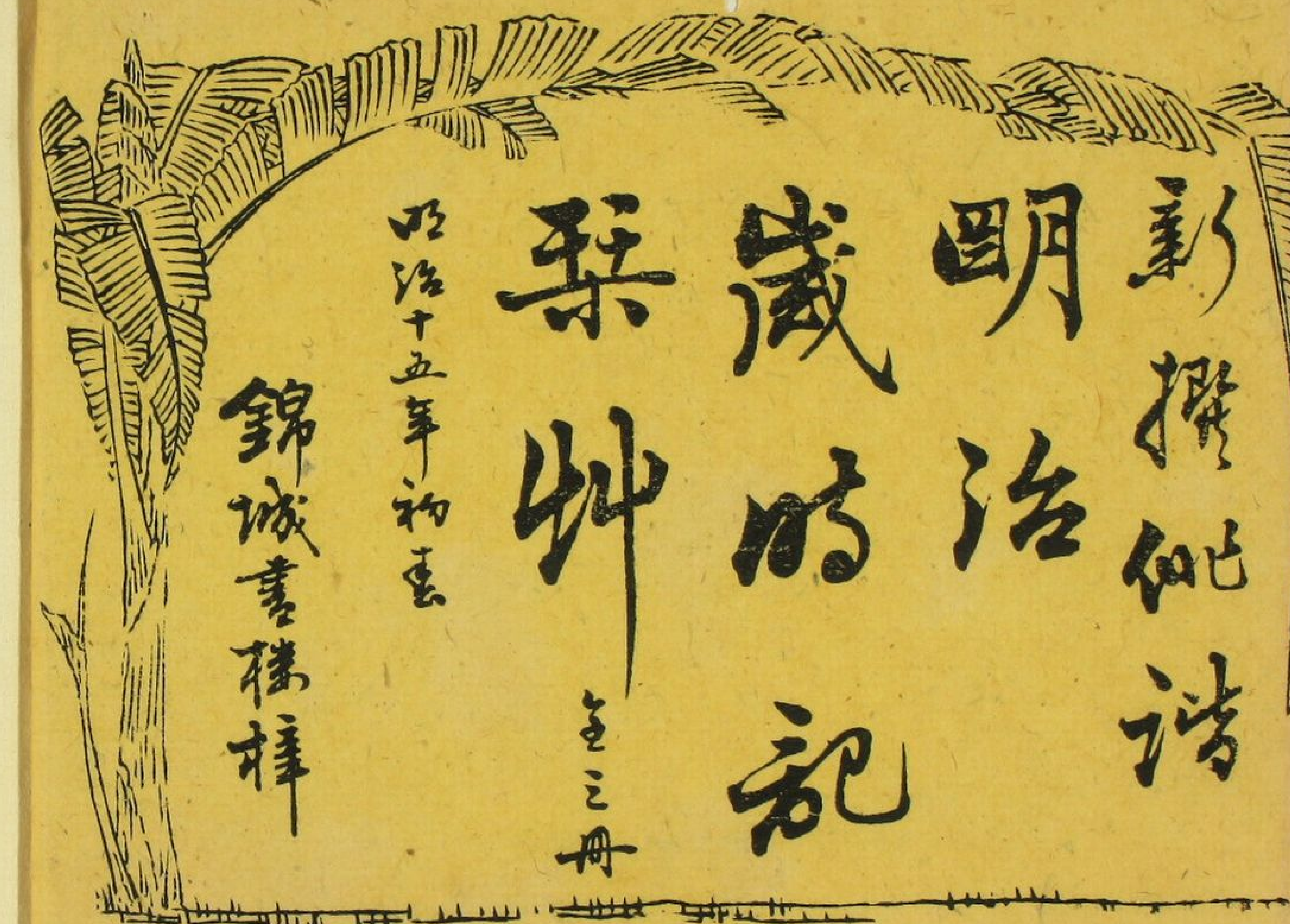
新撰三体詩格弟一
明治廿年藏

中村俊定文庫
文庫 18
919
1

花之下神詠

文隣堂主人



新撰俳諧

明治歳時記栞草

全二冊

明治十五年新刻

錦城書樓梓

世の中の
はちす
春の夕
十六ささら
新雪

凡例書の初学より後うなるを
その学のもの一日長の詞の注釈
乃ち学ぶ或は式目を
或は連歌の作法を
とりまくへて新しきを
例を以て説明する的切なる
書を入れそれを特長の
大人集の編述あって能く
て初学の便ならんことを
目録の詞あり式目まで

[illegible]

[illegible]

[illegible]

正訂覺亮ましまして附まします詩句
を擧たり眞に倫徒の軌範
と言ふべし此道に進志の
士一日も措へからず凡百和
玉とふかへし此言を以て序す
光つ爾

明治十五年壬午春二月

等載

凡例

一全書二編八俳諧の諸式を
擧ぐるを主とし一諸の和
假字以て分ち初心の和
歌は標注を加へ次に系
表波三段の表格を圖示
切字句法の大略の意を說
經者詩句を擧て能初心
の人和一中寸孔を旨とす並
爲て切字は詩句數百を
擧げ主として俳式の辭載

を初めとする今編集する
一世書の類ひする俗書世に多
しかれども大方は経学者戯
作者等の教ひ書肆の償
ひを受けるの為古書より抜
萃して私意を加へ一編
成たる者のこと多し故に
警夢を缺如を添へて
却て初心を惑はしむる況
や所謂波に於る以ての如
域をなさる者の僅か

八衢の一部をもつて限りなき
言の葉の道を綜ねらす
是まで抜粋する古人の白
玉を入て其意を失ふなる
もせしかども世書手本は
波八橋書彩古人の助辞本義
一覧若梗の義門大徒の活
語指南或は黒澤翁麿
古人の言霊抄等の書照
準して音便活用をもる
説ある書なれば世道よりの

旅の書ものに出ずる所の記

一 仙台藩の一つの古き物に歳

浪子。歳時記。等の書者

なりとなす。白尾の雁鳥。縄

尾寛。於よさす。又鄭玄。金富。

ひろ。又鹿笛。なるの事。また

なる異奥を用ゐる人有

聖舎して其実際を知る

ものなれ。引書を除くせ

しものなれ。ハ其実際を知て

多く改む本書を依て見へ

一 古きより二段切。三段切。を

調。大調。又何。ぞ。切。

話出。詩句あれども其格よ今ふ

のなりて音正の字を斜

さる者を知る文を除く必ず省

客徒を是を取捨する事を

なりたまふて

一 本文筆よりも有ハ筆を

書を引用したる者なり。海。

五 何なる何なるハ最初上巻中を

年人なる所世を書辞を

得て手より撰を乞ひ其是非を
是て彼を撰ひ此を捨て二巻
を編て以て下梓を乞へて
上中下と名付故に古海の説を
敢て脱陰せされハ形あるを
ハ近刻すべき書をさへ
明治十五年三月　香楠居主人誌述

新選俳諧　明治歳時記栞艸

目録

○巻之上

俳諧諸體之略解

○千句式　○百韻式
○米字式　○七十二候式
○易行式　○源氏行式
○長歌行式　○四十四式
○歌仙行式　○短歌行式
○十八公式　○首尾行式
○句數之事　○句去之事

四季之季寄

○一月　八丁　○二月　十一丁
○三月　十三丁　○四月　十五丁
○五月　十七丁　○六月　十九丁
○七月　廿一丁　○八月　廿四丁
○九月　廿七丁　○十月　卅丁
○十一月　卅二丁　○十二月　卅四丁

○卷之中

○去嫌之式　○天象
○聳物　○降物
○風體　○火體
○夜分詞　○非夜分詞
○山類詞　○非山類詞
○水邊詞　○非水邊詞

○神祇詞　○非神祇詞
○釋教詞　○非釋教詞
○両部詞　○人倫詞
○非人倫詞　○居所詞
○居所用詞　○非居所用詞
○動物　○植物
○不高不低植物　○支體
○病體　○旅體
○食類詞　○器財
○書體　○衣食類
○非衣食詞　○戀詞
○非戀詞　○述懷詞
○非述懷詞　○無常詞

○名所　○字去部　○字去別吟　○附字之事　○賦物之事　○月之句作心得　○花之句作心得　○褒美之正花　○非正花分　○天尓越波大槩

○巻之下

○發句切字　○本辭圖 辭一變 仝二變圖　○辭一變之部　○辭二變之部

天爾越波証句

○哉之部 九丁　○や之部 十二丁　○し之部 十五丁　○もれし部 十五丁　○じ之部 十六丁　○なりたる 仝上

○なり 仝上　○あり 仝上　○たる 仝上　○えや 仝上　○やら 十七丁　○らん 仝上　○こそ 仝上　○ぬき 仝上　○又 仝上　○ねね字 仝上　○そ 仝上　○つ 仝上　○よ 仝上　○この 仝上　○なり 仝上　○切字表なきき句 仝上　○早のぬ 十九丁　○ぬ 知 仝上　○す 仝上　○まじ 仝上　○しこの 仝上　○連句　○歌仙　○照附　○三物　○和漢　○半歌仙　○表合　○裏白　○百韻

月錄 終

新選俳諧 明治歳時記栞草巻之上

東京　小築庵春湖　閲
仝　香楠居幹雄　編
仝　佳峯園等栽　校
大阪　黄華庵南齢　校

一俳諧之式　千句　百韻　朱字　七十二候　易行
源氏行　長歌行　四十四候　歌仙
短歌行　十八公　百韻之尾　歌仙之尾
裏白　面会　三ツ物

○千句式

百韻十巻なり　巻句を四季ふりわけべし

春三句　夏二句　秋三句　冬二句

○百韻式

一折　表八句　初表と云　七句目月の座定
一折　二表十四句　十三句目月

裏十四句　初裏と云九句目月　十三句目花の座定
二裏十四句　初裏と同く九句目月　十二句目花

一折 三表十四句 二表と同く十三句目月
一折 名残表十四句 三表と同く十三句目月
右四折合て百韻なりこれ初の二折を六十韻と云

○米字式

一折 表八句 初表と云七句目月の定座
二表十二句 十一句目月
三表十二句 二表と同く十一句目月
名残表十二句 三表と同く十一句目月
右四折十月七花四なり始もるに米字の八十八作ると
以上何よ基とて後世好事者の作り出たるものなり

○七十二候式

はい百韻乃中三の折表裏共一折二十八句揺るるとも其外
総て七十二句見なり月花の定座百韻つうけるなし

易行式

裏八句 七句目花の定座 仕裏月なし

三裏十四句 二裏と同く九句目月十二句目花
二裏十二句 初裏と同く七句目月十一句目花
三 裏 二裏と同く七句目月十一句目花
裏八句 七句目花の定座
裏十二句 七句目月十一句目花の定座

表八句 七句目月
二表十二句 十一句目月
名残表十二句 二表と同く十一句目月
右二折月五花二なり

○源氏行式

一折 表六句 初表と云五句目月の定座
二表十二句 十一句目月
名残表十二句 二表と同く十一句目月の定座
右二折月五花二の歌仙の法のごとし其外二の折二十四句添ることなしなり

○長歌行式

表八句 七句目月
名残表十二句 十五句目月
以上二折月三花二なり

裏十二句 七句目月十一句目花
二裏十二句 初裏と同く
名残裏八句 七句目花

裏十二句 初裏と云七句目月十一句目花の定座
二裏十二句 初裏と同く七句目月十一句目花
裏六句 五句目花の定座
裏十六句 九句目月十五句目花
名残裏八句 七句目花

○四十四式

はなの句詞の初打と名残の一打とを合せて四十四句なり
二三の打裏表を猛ともれと心得へし右二打の月三花
二ツの月花の定座のはるとなし

○歌仙行式

一打 表六句 名残表十二句 ナ句目月

名残表十二句 ナ句目月 裏十二句 七句目月 十句目花の定座 十二句目花と不定座

裏六句 五句目花の定座 月と句の花とふ

右二打合て二十六句なり

○短歌行式

表四句 月なし 裏八句 裏移りに月 七句目花

名残表八句 七句目月 名残裏四句 三句目花

以上二打月二花二なり

○十八公式

表十句 九句目月 裏八句 七句目花

以上二打月二花二なり

歌句

トハ二座の発句なれハ初発の上句に季を表はすそ
の時ハ其季をのもと切字をもていのこるあるそ
句を作るへし四季の詞はやり其ものの名をもつ
ハ季を書る発句数首を仕載せり参考まへし

脇

トハ

下の句に歌句と同し季を結ひ歌句のこと
をよくよく心得へし
但付作遅速といふこと
といふことなり但しハ三月の歌句に二月の季にて
なつるハ二月の歌句に三月に昭もとろし二月ハ
二月の季三月も三月に季をつ為へきなり

第三

トハ

上句の季をて脇へ〜のくつのほとも一句の付さけ
なる歌句の作りなるしは稀なる稀なる二月の海の事
なへし

○三月も五月の季とも立春の若より四月の花
迄ハ季あるて四季に付詞の称よ・必生星と付垂を
表三月に五月の季なり四季共に同ク
○しかりなつてもデ苗ましし
但こ〜のテ苗ある時ハ二苗ラム苗モナシとも
苗ものの外の苗ものハ脇季に
○こ〜のテとハワキの七文字にテ字ある時ハ才
三テ苗ハ無きなりと心得へし

四句目

ハ 雑の句なり雑とハ季のなき句をいふなり

五句目ハ　月の句とまへし月を捨て付
り捨て句つけて捨て三句つゞくべし

六句目ハ　捨られまて也初表とも也四神祇釋教恋雜者
虫懐紙釋教恋雜也

一ウ　見しり初裏とも裏角しも也
出吹神祇釋教恋雜也

ウケ句トハ　挿しも出細しも也六句目の付句也
恋の句なゝハウケ句も恋なり神祇の句なゝハ神
祇ゝ出へし餘も見になゝふ

句数月花の句ハ捨本にあく記載に尤歌仙の出とん
まゝ載る句作仕ゆゝまゝく味ひ知るへし

○首尾行式

歌仙　初表　六句　五句目月　合て十二句まるとゝふ
名残裏　六句　五句目花

百韻　初表　八句　七句目月　合て十二句まるとゝふ
名残裏　八句　七句目花

裏白　六句ノ八句ノ表ばかりまるとゝふ　面合　六句八句　表裏ともに神祇恋雜名残ばかりまるなゝふ

三ツ物　発句。脇。第三。まて三句まるとゝふ第三の句ハ心
得あるへし

月　発句ノ脇ノ第三ノ出てる時ハ初表の月なさに

花　発句ノ脇ノ第三ノ出てる時ハ初裏の花をせに
梅ノ梅を花の社に出へし又他の梅花ハ出もよし

但百花ノ第三まてハ月ノ出なさ

発句　恋なゝハ脇も恋にて
出へし

表句　釈教なゝハ脇も釈教
ゆゝ

会席　トハ会主初まて詠歌を結ぶ也

連句　トハ歌仙巻と百韻おのゝ

一順　イチジユンハ発句より会席の人数有ル
オ一句づゝ付るとゝふ

俳　トハ去社三句と裏を二句ツゝ恋
二句目数なきハ五句おつきるを云

回島　アザルトハ一人にて二句つゝけてまるを
ゝふ

前句　トハ我句ばかりを和の句を云

遅吟　チギムトハ句作のおそきをゝふ

巻頭　クワンドウトハ発句をゝふ

助點　ソクテンハ其席にて直と
点をとゝふを云

加筆　カヒツトハ句の句ゝを新をなゝして
お添をるゝ

回　神祇なゝハ脇も神祇す

回　本恋を多おの発句なゝ
まゝて苦しゝ

再遍　サイヘントハ右の人数の句まゝ一遍
ゆ廻をゝふ

ギムセイハ　ゝ琴をゝふ

猫俗　ドクギムトハ歌仙にても百韻にて
も一人にてまるとゝふ

打越　ウチコシトハ前句の一句おそ
の句をゝふ

秀逸　シユウイツトハ出れてよきを句を
ゝふ

添削　テンサクトハ一句の直しをゝふ
する事なり

批言　ヒゴンハ句の句ゝを所をなゝして
ゆゝまとめて所なるなり

褒美　ハウビトハ句を誉てゝ所
お添をるゝ

筆句　連中の執筆より出る句なり　但し筆句と云ふ句なり　執筆句と云ふ句なり　但し筆句と作べし

内越　付て句を考へ〳〵に一句へべうを云ふ

二句去　句句より二句へべうを云ふ　三句去　句句〳〵より三句へべうを云ふ

字去　句句より二句へべうを云ふ　五句去　句句より五句へべうを云ふ

衣季　竹の松　夢　涙　月　松　枕　烟　五句さる

七句去　句句より七句へべうを云ふ

面去　句の面を云ふ　但し表も下面裏も下面とも云なり　表裏の面とも

打ちて見るに下面のみなり

打去　句の面の一打を云ふ　一ツ二ツ四ツ八ツ　軽重みなりて句

みなべうを云なり

○句數之事

春　秋　三句より五句まで　夏　冬　一句より三句まで　但

暁　月　幾句月の

恋　二句より五句までつゞく　句

五句まで　但し古例なり

雨　句　二句より五句まで

神祇　釋教　旅　述懐　水邊

夜分　居所　但恋の句は紙を考へし　人倫　人名

国名　名所　聳物　植物　時分　動物

植物　時分　衣類　天象　飲食

芸能　二句より　火体　一句まで　書体　一句まで

人倫　人名　国名　名所　聳物

隆物　濁假名　二字假名　火体

風体　物と人と聳りたる時分　日月星と

聳りたる光物　木と竹と草と聳りたる植物

虫と獣と聳りたる動物　以上三句去なり　わろくても同し

国字　動物　植物　時分　夜分

衣類　述懐　猟漁具　旅体　居所

神祇　釋教　恋　雲　山類　水邊

以上百五十五句去なり面白き句を詠ても同し同字を使ひ句を作りて則成なれども者別なりけり
概二句去仲のうまいぶむ三句去殺云八本の字と本の字一
方桂樹なれども二句ちがへとぶて知るべし

月　松　竹　四　夢　源　桃　衣

紅　烟　同　孝　以上百五十五面白きとうつても同し月
とゝ百ちがへて面をうつてのことなり
同面を月二つせば
但月次の月名を定るあるべし

同増補新撰

父母　男女　人倫の民例なり　主　誰　身
二句充ちるべし
獨　媒　は五句を人倫の民例なり人倫　僧　寺　は
と定めて是を定るべし
人倫の民例居所の非也
と錯とも是を定めて人倫
天女　帝　宮門　仙洞　新院　佛
親王　皇女　天童
鬼　以上十句を古式の捨て侍ども人倫なれ二句去
是一句つゝ居る
孤　子　規　松虫　水仙　水雜
孤　尾上　は毛虫八百箱を法して　雷　雨　は二つゝ
二つあるべし　百箱なり

八四句去なり
つゝ句なり
菓　酒　は毛虫を日用の物なれて了社二つゝ句なるべし
但一つゝ句なるべし
松の子の日　月の光　料　花　吉野　は人倫
清水　吉野の山
清水して雜部に入べし
欲　米　篠　鐘　鐘の鐘　瓜　木　書
山伏　夜分　は七句を古式の捨物なれ
も今式の沙法なり
鬼　翼　蔦　水色
閼加　遠　火　物憂　眠　家　起　家
出　宿　は八句を古式の捨なれども
定めて是を古式の捨なるとなるべし
冠　烏帽子　綿　本　夕　雲
雨　月　雪　は物　月　は
古今の是　陰生　師走　は毛虫を古式の捨なれども
古今の是
武なり
山　峯　風　嵐　は四句を
倒なり
古今の句去の新撰なり
後学を事仲と以て用とし
上　〇六

名詩国名在名号或官名爵号人名な
ど皆時名名不可付ゝ此水色山形水
ほそ色〳〵の体を通ずるなり
時〳〵花菓草木薬物匂香飲食物すべて
もてなす〳〵種物を通ずる所多く歌おも食
物すべて草木もてなす〳〵動物を通ずるなり
紋所或ハ種植の所〳〵と草木もてなす〳〵体
を通ずるなり
釋奠　素秋二部同ト　春　絵とも　秋
書文　素秋二部　素　絵とも　秋
雛　素秋二部　素　絵とも　秋　但ハ今ハ
巻の順　素　逆　秋二部同ト　巻入　とも素
古代より神表の四時ひ基ら物の中に古

人の名のことを賞ず家に今慶　武家目上　或ハ
哥人儒者医者百姓所〳〵能役者職人おの
仏祇釋教産業者忠情哀傷あるなり
古人の名ハ表の四苦〳〵に尤も和在
うてこく古人〳〵四名和のうて仏祇釋教産業
者忠情哀ハなり名和及ひ国名郡村所
本ち表の四苦〳〵に旅体四季
野〳〵に立雨夜作云七十一作花信詩ハ
年中俳諧の部於有事也詩哥ハ四季七
十二候上樓　閑居ハ長詩ハ恋ハ
連俳とも素ハ表ハ和哥ハ牡丹　素花信ハ
棟素花ハ連俳て長なり　生別と新〳〵に
して詩新の作と別或ハ詩書和て異様

なる事を見出し例格と為し乱れざるに由
時の四季正月元朔より十二月晦日まで
詳細に記載し而通ずる事只記
録無のみ徒書を写すことを録し須臾
に成り百韻の巻句に殺句なくて巻尾打の
けるぬく句を捨て面八句裏十四句月花若
去嫌わ巻ず百韻の法式かくも遠ざ
て百韻法式次て続二百韻式続三百韻と
成なり
但俳無うつり二句去ら句去れ物々式る五
句去七句去面去打去物こなく三句去る
べきなり

四季部

一月

大呂律　小寒節　大寒中　殷正

初冬　季冬　臘月　歳首　歳始

肇年　改年　甫年　更始　年始

復新　新正　履端　開端　改旦

歳初　聖寿　上日　雑旦　端月

睦月　初宝月　祝月　春月　元日

元初　元旦　三始　年一月一日一　三元　三初

元日は不可事無いてもお慎なれども慎と無と出

新年　一元　たつ一　たつる一　一元　一乃始

青の一　初日　日の出　初空

初春　一移　年頭　一礼　一五一の日　四方拝　一月一日　言刻限

宮殿東階の前に南庭を建四し三中に床座を設け者む
堵あと備へ一はまて天皇を祝ぶ正拝の式あり天地四方ぬひ山

陵と称しあひて互ひに祝ひ宣祝の辞
寿なりんと祝ひのことばなり

一月 一日祝日以下勅奏の群臣天子より
年賀を申上らるゝなり

御賀の畢てのち行はるゝ音舞
天祖拝礼舞人酒肴を賜はる高砂
さゝる山女貴けめでたきより法師も祝ひ
下さるゝなれども祝せしなり

はつかの夜のあくそ嬉ふ 井開 つゝゐ井 井戸あり ある 一日より
人ありてあく慶なり

雑煮 亟海鼠串貝結び昆布
既見本を祝ひとそれハ一日なり

大根芋 唐びく義 初こゝろ
とゝ 柳 生徒弟 昔方柳

ひゝ有 掛鯛 祇園前机 を八坂神社と陽む四元の
玄刻を行ひし神なり

門松 くぐり松 くぐり行 串柿作 大きさり 門らさり 鬼去本
大きさり 松のさり 炭

注連飾 伊勢七ゝ五ゝ三とおくゝ たゞ ○ 稲のさり 福
注連を七ゝ五ゝ三とおくゝ たゞ

裏白 注飾 植俵 なり 簀 海鼠 祝儀ふとも 植長なり 北祝詰

庭竈 大服 露の庭丁

ふるゝ鍋 鏡餅 古備とも もちひうゝみとも
ふる餅 異芋のぐゝ

大者 遥国

蓬莱 榧 結昆布 橘栗 津塚 海老 柿干 野老
橘 柳 柑子 密柑 柳 ころぐさ ろくなり 老

お伴 一日ふる 雨とふる

うさちとのへて
百なり

ひゝき豆 ひゝき牛 芽牛
ゐゝさ牛 芽牛

松の内 とゝ男 元旦 元旦の鋼 の和歌を

祝て一月三日 賀 松 都 三日 膳 赤熱 紀後国 吉沙よ
祝りゆふ祝なり

足なる 鯨魚 ものの 吉沙舎ゝ
供もるゝなり 今ゝ慶ル

○ 大和西 吉野の 古民 年ゝ 梅中 ゝて ゝの 笛を 美江 美庭の
ひゝゝ魚形の 節なり とゝふ 今ゝ慶せを

水の様 四庭の ゝゝ ゝの ゝゝ 財を 芋ゝ
て ゝ ゝ 四年なり とゝふ 今ゝ慶を

初夢 初夢 一日 一日の 夢を ゝ ゝ ゝ

猿回し　猿回し

破魔弓　大豆の茎

手鞠　手まりつく

羽子板　やりもち　こきの板　こきの木

羽子　羽子つく

蓬開　ちゝ高　一ー麦　一ー麦

花煎　花煎

餅搗　臼　杵　餅搗

粉茶　茶振舞　夕茶

福寿草　福寿草

連歌　三和俳諧

三ヶ日　初茶の日

鶴起文　鶴起文　鶴起文して茶なりて中茶のごとく何を点ずるなり

七種　七種粥　七種菜　鼠麹草　母子草

鏡開　十一日

白馬節会　白馬節会　七日の歌林苑一百首　百人撰の和歌なり　貞観儀式に仍る白馬を牽

初子　初子　初子　初子の日　少松引　○置炭　炭の日　炭なり　炭なり

を引　初子の方角を命ずる　初子の日　初子の日　初子の日

土牛童子の像を立　たまものの日社中四方のつま陰陽
カヘナシ　ケンハイ　セツブン
栢梨の勅幣　拝殿の前の酒を拝中　豆まき
（なるべきなり今慶に）

立春のお日
なり

内侍所の弓弦　天皇の
鬼追拝　柊こに　厄祓　一冊　吉田社大祓
イマシカシラサン　ヒイラギ　ヤク　オホバラヒ
邑儺　鬼やらふ
ツキナ
祝詞なること
なり

参詣の屠蘇　毎年四方の四方の刻まで　大原の雑魚寝　そばの実大原ざこ
四日日別に庚風を建　ぬく酒底平　ねまき男女寝りて
て正徳と称す　所斗　ぬく酒底平
ザコネ　ジンジ
おへ侍まれと称ぬく酒西汐酒て　知布川の祈る　生つ石ものと弟社
チヤクダ　マツリゴト　カリ　ジンジ
著祐の政　雪晒米　酒の底の知布と川原弟
カンサラシ　カンネンブツ
雪造酒　雪笹　雪の中
カン　ツクリ　タケノコ
ヤツウチギトリ
芙蓉取　鶏巣とふ
サウバイ　カサギス
早梅　早咲　雪の
ミソサイ　サヽギ
鯖鯖　雑
タラ
鱈

陰陽殿すて
天子弓を注進する
陰の雪をのる
毛七月なり

踏弓　男一一年五十六日
ゆんもりとゆんをとる
ワタ　路ふとまゆを踏て花
と踏へぐいになりよりてう
エブミ
かぶ一　絵踏　踏ふとふ切ふ舟を結ふ
ミ
ふて正月十五日より三月まで
ふまるなり

押仕まふ正月押うれ拔て
一年中ふ長なりとのふ
ユギヤウヅギリ
拔切　正月十六日より一年中用ふふ
の札とうる而百の内ふ拔
ヤクジンマキリ
厄神巻　十九日　石清水
ハ悔へ寄法して　氏の巻の札を求めて用ふ
ヨシダキヨハラヒ
吉田清祓　十九日
やふ入　十六日　長谷八
長谷の義
入とも書なり　まるとの　右より
義ふ　ふ　天部
ヨシ　ヨシ　ヨシ
ヨシ　ヨシ　ヨシ
ヨシ　ヨシ　ヨシ

早椿（ハヤツバキ） 早咲ー 冬ー

春

大雞冠（タイカウ） 勾芒（コウバウ） 神 蒼天（サウテン） 青帝（セイテイ）

東皇（トウカウ） 東君（クン） 青君（セウクワウ） 夏正（カセイ）

陽公（ヤウコウ）

二月

大簇（タイソウ） 律 立春（リツシユン） 雨水（ウスイ） 中 孟春（マウシユン）

早春（サウ） 新春（シン） 殺春（バツ） 春分（シユン） 春社（シヤ）

正春（ワウ） 規春（キ） 開春（カイ） 春場（セイヤウ） 初陽（シヨ）

少陽（セウ） 孟陽（マウ） 新陽（シン） 孟陽（マウシヨウ） 陽月（ヤウゲツ）

睡月

春日（カスガ） 一日（ヒトツ） 枝園（ヒラフカ） 口 河内 椿戸（ウド） 口 山城

新年（シン ネン） 拜（ハイ） 朝廷より各社に幣を奉る 神武天皇の御即位の日なり 式に新年の条に二社四日の条に神武天皇の御即位の日なり

大原野（オホハラ） 八日 山城 紀元節（キゲンセツ） 十一日 神武天皇

雲のの（コヘ）ー 春ー

四季部二月

上 〇十二

仁孝天皇（ジンカウ） 廿百 御即位の日なり

霞（カスミ） 村ー ー立ー よそー うすー ー立む ひとー 霞ー ー の谷 ー の美（雅） ー の花 ー の神 ー の海 ー の洞 仙洞 ー の ー

雪月（ユキヤマ） ー雪（シツ） ー なごり ー け ー きる ー の谷 ー の美 ー の洞 ー の ー

る まの ー ー 拾ふ 手拾 ー 折る 手折 ー 拾ふ 手拾 ー 拾ふ 手拾 ー 拾ふ 手拾

氷解（コホリトク） 解（イトトク） 長閑（ハトカ） 暖（ウラカ）

東風（コチ） 風なぐ あの風 山霞（ヤマ） 知ふ（ワラ） 山の春色 霞ひ ー る 霞ひ ー る

恨の ー（ハタ） 恨む 思ひ 思ひ 思ひ

鶯（ウグヒス） 今 春 今 春 今 春

春の琴（カドウ） 琴の琴 琴 琴 琴 琴 琴 琴 琴 琴 琴 琴

匂ひ（クワウ） 匂ひ 匂ひ 匂ひ 匂ひ 匂ひ 匂ひ 匂ひ 匂ひ 匂ひ 匂ひ

行春（ユクハル） 春 春 春 春 春 春 春 春 春 春 春

枝 ー 枝 ー 枝 ー 枝 ー 枝 ー 枝 ー 枝 ー 枝 ー 枝 ー 枝 ー 枝 ー

雪の ー 雪の ー 雪の ー 雪の ー 雪の ー 雪の ー 雪の ー 雪の ー 雪の ー 雪の ー 雪の ー

雪 雪 雪 雪 雪 雪 雪 雪 雪 雪 雪 雪

結ぶ 結ぶ 結ぶ 結ぶ 結ぶ 結ぶ 結ぶ 結ぶ 結ぶ 結ぶ 結ぶ 結ぶ

本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本 本

結ぶ 結ぶ 結ぶ 結ぶ 結ぶ 結ぶ 結ぶ 結ぶ 結ぶ 結ぶ 結ぶ 結ぶ

ても ー ても ー ても ー ても ー ても ー ても ー ても ー ても ー ても ー ても ー ても ー ても ー

春 春 春 春 春 春 春 春 春 春 春 春

百千鳥（モチドリ） 多鳥（トリサヘル） 鶯（ウソ） 鶯 鶯 鶯 鶯 鶯 鶯 鶯 鶯 鶯

春霞（ハルカス） 霞 霞 霞 霞 霞 霞 霞 霞 霞 霞 霞

霞

魚氷に登る　獺魚を祭る　諸魚　鮎　鯛　千鯛　沢庵の一　屋敷の一　梅　一の実　根とし一の一　一の実ち　宮の一　紅の一　蹴の花　この花　好文木　詩梅　花中逸民　社頃一　やぶ一　樫鉢　水仙　花魁　寒つけ一　寒敷一　匂ひ梅　ちく一　青ちく　花魁　清友　書信　一の花衣　一の花笠

柳　門もる一　一の色　つの一　え一　そこもの一　井桁の一　一の烟　垣根の一　こぶ一　ゑ一　川添一　ちくりを一　古一　くけとも　馬柳　風見鶏　ちぐら一　たこと一　一勝　一の髪　泥一　めばり一　岩一　川一

さ一一　もつ一　松の花　ゆめどり　初ことり　十ふりのむ　モヘバウ小松　本外ケリ　一石　タマエサク　玉江咲　芦の目ろ　茅ケリ　角ぐむ　芦　一の角　一の雅　そろ　ぎさ江一　一のふひも　蕗の薹　きのめ　防風　蜜菜　けし　茅の色ども　狐泊　狐色　菜花　諸菜　干菜　一大根　野大根　雑菜掩　豊　芹　田一　畑一　根一　根白菜　芝の根　芝生　蓬　蓬島芋　児花　川原芝　ともし

本の芽　一一清　一一掩　茅蔦　芝生　柱物　柱麦　茅巻　あま一一　加甲一一　清水一一　清雲　あま一一　加甲一一　清茅一一　さとり一一　茅の芽　古一　一蒲　日永　とろりとする　酉の日　たづさ日　日永く遊ぶ　白ゆり新　茅の花　水松　茅屋葉　清雲　茅菓　まつ一　秋一　くりの日　蛭の色　蛭の色　くしまつ　ゆ　ちさ春日　ゆ　ちさ春日　佐保姫　春の色とりとりに作　但非神祇　春の色とりとりにつくるべし　芋茎楽　芋茎楽　芋茎楽

梅花月　小春生月

出雲祭　一日　吉野の桜配　同　水無瀬　初午
行基菩薩　遺教経　九日　常楽会　十五日
柏原大師　蔵　十五日　法隆寺八講　四日　祇園八講　日
別見　十五日　三月年中の初午卯酉なり　春の能　四月より　四十四日
まてたまたま異福ち南方のお美のようて行ふ能なり　口おの石塔
る鼎往来なるゝ月物ほろ塔を踏なゝ一下初ゝて見と弁ひ
沼戸四辺の経堂て住つ年り初むるなり南方門面若ゝ方右
る機会くり旅人月福を新つみまねた有うて海を禁きはあ
ゝうて能を勧むる祝ふなり

二月春九行

長柱くと塩ひこを弁よ水流ゝと　半ある水なき井四里百
涌出る之を汲み礼を押に左良　為禁井に　沈四日　千日
献生子　一日文殊ゝて まき袋ヨる報　山陵　廿日
の種をとれて賜ることなりとそ　今度
芝田祭　沙内　四月廿日　摂津国　十六日　宇佐祭　十八日
芝春日祭　芝春弁殿祭　芝　廿日　初午　稲荷祭
油揚あを供御よ　春鶯　五月
供へまつるなり　釋典　四月十日　八月下丁日　春秋両度
なり法ゝ一ゝ為なり　久安寺三彩

子　二月　九日　踊念仏　彼岸　四月廿日　涅槃会　一一像
飾る　佛の別　　中ゝ三百為　四月十五日
後の一一ゝ為なり
治聾酒　北ゝ酒をのめば耳のを　社日　春分の後
きくを治まるとふ　　北ゝ
はる春ゝとふ北ゝ南ゝとる
北ゝ春ゝ南とふ
二百灸　北ゝ百ゝ
ゝ二百なる
らでもなく保て二百とふ法
毎月二百のとて出るゝ非なり
法光寺の門の内なるなり中ゝ
社法の百宝ゝとして恩を謝ゝとふ
桜塔　十六日　祇園
法師之を供
初雷　初電　出雲一番
焼畑　物やく　野やく　山やく
焼畑　物やく　野やく　芝やく
焼畑　切生一
切生の一
おゝ流ゝ
おゝ流ゝ
萩の焼原　一のあ
古祝の一
虎杖　さゝまま
はの一　ゝけ野の一
ゝさ一　ゝ
桂　ゝ一　ゝ一
ゝの一
萩　早一　一子
ゝ一　下一
物背
一つゝ
苗の為
嫁ぶのゝさとも　ゝつゝ来
蒲公英　肩つゝり　蒲公英の心　ゝ
越冬

水葉 壬生ー 久代のー 糸ー

菜の花 大根の花

諸木 拘杞 五加木 連翹 接骨木の花 野胡桃の花 紅梅花

接木 ー植 ちつ接 彼岸桜 ちつ花

紅梅 八重梅

陶雁 厂の名残 ふくむー 高く名 ス一 少くりー 赤の原

燕 玄鳥 ひな つばくめ

ー花 ー巣 ー流 揚羽のー てふてふ 白ー 黄ー ふはくこと

雉 ー来る

地穴を出る 地虫穴を出る

蛙 くくと 鳴ー ふはづ もむくぐ

蛇穴を出る 井のー ー の床 夕ー めくるー 眠つこと ー眠をふー

蜂 仙蜂 ー蜂 ー の巣

虻

加不多 ウヤトドラ たとと香

孕雀 祝ー 雀の子

松花香

引蝶 雛ー 引時

多の巣 ー の古巣

雲雀 告天子 ヒバリ 雲雀の

鶯立ー 鶯鳴のー 夕ー ー鳴るー ー鳴るー

雉子 きぎす 立ー

山鳥のー 裾野のー 裾野のー 妻こふー 尾上のー

鹿の角落 角切 角落ー

貝類 蜆 田螺 家居虫

やどり貝ともまて貝 馬刀 まてぐー

蒸鰈

鯛取

鯛月

雪の別

風巾 とびはつる

四月

暮春 五陽

残春 晩春

花光 花冷 桃浪

春惜月 償暮

大初午 一日 松尾祭 二日 平野祭 二日 同上

神武天皇祭 三日 松室祭 三日 上巳 三日 桃旦 三月

元巳 上除 桃の子日 々展

雛 ー 大裏ー 紙ー 桃のづー ー 雛 桃酒 菱餅

曲水宴 三日 巴宮祭 羽鶴祭 松室流

姑洗 律 清明 穀雨 中 季春

載陽 竹秋 殿春

病月 素月 蘭月

桜月 弥生

川上より桜と流し川下りて桜流まを来る　汐干　往古　加茂　品川なとと
西行の歌に俤り絶てと桜をとり沼のむ戯なり
蛙ひしゃく　土佐の海　巳日の祓　上巳の日川を上て祓を除
祝石石　の祓ちり今廃せり
源広の祓　四上　源氏　闘雞　鶏合　一名　トウテウ　キヤウクヤウ　三日　種供養　二日　天王寺
廣瀬祭　四日　大和　鶏田祭　四日　四上　護国祭　四日　山城　如意法院
大神祭　九日　山城　梅宮祭　九日　山城　高雄法華会　四十日
やすらひ花　日吉祭　十四日　をは　普賢寺忌　四十四日
吉野の金式　四十日　壬生祭　四十四日　一一の仏　一一精　嵯峨大念仏　四十五日
加茂祭　十五日　山城　いふひ祭
多武峯佛　ちゆの花堂　ヨ動る　吉田祭　十八日　山城
梅宮詣　四十五日　ちゆ京　人丸忌　十八日　山城　吉野拭　十九日　山城淀川
の祓也汗流ふと拭とふ佛新赤梅樓　なる仏本殿の出る俤を浮とふとぞ　汐干祭　四十八日
言の葉の女詣　四月　順の宴　送の宴八　一年二会あるうちの景初を
春とは宴の斗を後を春のとなる　吉新殿　四月十九日　三月あり
なり四月宴のうとあるなり

言葉　紀貫　ちゆ山城　河原院　河原院なる　からんと紅垂れ人　八はちなり
秋雞　ぶらくふらくふ　つさけり　まさま仏の戯ふ　人はちなり
秋雞　ぶらくふらくふ　つさけり　まさま仏の戯ふ　人はちなり
春の様ふ〜〜〜〜人なの春の枝へ泊し
もゝ〜〜の春を美めよ　まを潮　三月　三月　山里　三月て拾ふ人
やすらひの春を美めよ　三月　三月　山里
柳　柳　一主　一　柳　一主　一　柳　一　滝　一　山　一　赤　一　つせ
元本の　一　元本の　一　尾張の　一　山沢　一　柳　一　滝　一　滝の　一　滝　一　渡　一　滝の　一　白川　一
尾張の　一　山沢　一　墨染　一　布川　一　曙　一　楊貴妃　一　雪　一　てまり　一
糸　一　糸　一　墨堅係　有明　一　若　一　沼戸　一　咲ちの　一　人丸　一　庭　一　平井　一　人丸　一　庭　一
ちを山　一　ちを山　一　墨堅係　ちの山有馬　とちのを　愛見　あぐ乱　巻の一本　一　人　一　岩　一　岩　一　初　一　桜　一
ちを山　一　ちを山　一　墨堅係　かぐ〜　一　沼山　一　粉　一　名　一　桜　一　名　一　桜　一　名　一　桜

三月菜　三月ちな

蕗　白ー　ちりー　うさーのー

蓮　ー蓮　ー蔓　ー憂　ーづる　ーこぶ　ーの丸　松のー　ーの下げ　ーなる　ー蓮ちゃ　ー蓮の初物　雀のーなる　ー蓮ちゃ　ー蓮の

山吹　ちゃ白　ちゃ白もうふーー　露のーー　露ちゃのもの

蓮糊　蓮ちゃ　きあ　蓮ちゃ

海藻　ねばねばもの　くーなー

本蓮　本蓮　大山蓮　花

蘇方のー　蘇方　小柳のー　唐柳

柳　柳　柳　

つゝゝ衣　うゝゝ袋　山吹衣　かさゝ茶　きさゝ茶　菖の蒲　クレ　ハル　ゆえゝ　さゝゝ茶　ゆゝゝ　一の付　一の付　一の付と　一る陽　一を惜む　一の別　一の名残　一るて　一るて　一海さ　一の限　一とせき　夜とせり　一る初つゝゝ　夏とせり　三月晦

夏

炎帝　日夏　シュウ　祝融　赤帝　昊天　夏ノ　ソラ

朱明　ナツ　シツ　熾日　ナツ　ノヒ　蒸砂　ムシツク　蹈蹟　ヘイセキ

苦熱　クタン　ヨ

五月

仲呂　律　チウリヨ　リツカ　立夏　ケ　小満　中　セウマン　マウ　芒夏

初夏　シヨカ　首夏　シユカ　早夏　新夏　純陽　ジユンヤウ

正陽　セイ　清和　セイワ　ウヤウキ　麦秋　バクシウ　乾月　ケン　鞆月　トコトバ

余月　イヨ　卯月　ウツキ　卯花月　ハナヅキ　花名残月

皿夏旬　マウカ　ジユン　四一日　天あり　辞退へ扇　天祝　カウイ　こゝろもつて　紙　スヨレ　袷　アハセ　下ケ帯　涼ぶさ　○てるもの　芝袋　ばくば

の配布　まゝ名色　たつの位　芝帯　まてても　四十四　芝袋　芝袋　はくば

初祭　ハツアハセ　筑摩祭　ツクマ　一日　名石　○筑摩の神氏　あの女ども　枕のはくる　男

の物語　神を祭る　なり　祭る　なり　祭る　なり　

杜和泰 日上　楊梅泰 日上　大津泰 上ノ夾

山陰日伏 日午　平安泰 上午　久米泰 日中巳 山城

山科泰 上巳 山城　伊吉郎泰 上卯 摂津　南泰泰 上酉

国泰 中申　山泰泰 日　青泰泰 中午

虎杖統　佐紀泰 中申　大塔舎 大坂

らーらの独　青泰泰　花代 サ一百 大阪の祇園

ホト、ギス　子規 時鳥 ジョウ 蜀魂 シュクコン　知泰泰　鹿の子樹 タカトヤ

くさち　田舎の田長 カンコドリ　陸鳩 ヒ　鶯の谷渡り　知泰泰　毛むくじゃら

郭公 ほとゝぎす　初鰹 ハツカツオ　鰹泰泰　枯木 トウ　杜鵑 トケン

アヤメ　菖蒲 ショウブ　菖泰泰　楊梅 ヤマモモ　山時鳥 クツテ　杜宇 ムヤウ

菖蒲 ショウブ　菖泰泰　楊梅 ヤマモモ　杜宇 ムヤウ

ホタル　蛍 ほたる　蛍泰泰　神の一 ボウフリ　蛍の一 ボウフリ　蛍の一 ボウフリ

イロ〳〵ムシ　諸虫 ムシ　蠅 ハエ　蚊 カ　蛭 ヒル　蚯蚓 ミミズ　蛇 ヘビ　了又 ハツ　蛇 ヘビ　蛇 ヘビ

蛇とんぼ　蛇の子　蛇切虫 ミミズ　蚕 ノミ　蟹 ヘビ　虎 トラ　蚕の蛾 ガ

鹿の袋角 シカ　初鰹 ハツカツオ　鰹泰泰　鰹泰泰

塩鳥織 シホイカ

蟹醤 カニヒシホ　擂鉢 カサ 鰹の子

蛍醤

蛍附子

老蛍 オイウクヒス　卯の毛　一一月取　うつぼの毛　一一隆ふる　雪の一一　塩の

一一　ちとねうづき　夏木立 ナツコダチ　蛍花 クワ　のこるも　砂の毛

ゑんぜの花　ゑんぜの花　一一の楓　楓 カエデ　一一柏 カシハ　楓 カエデ　蛍ひそ

ゑんぜの花　新樹 シンジュ

柑子花 カウシ　橘柑の花 ミカン　蛍樹の毛 ケイジュ　蛍の毛

諸木の花　樹木の毛　柳ぜんちの毛　山ちさの毛

樹木の毛　桜桐の毛　うるめの毛　松毬の毛

樹木の毛　蛍柳の毛　本末とも　桐の毛　毛抽 ヒキ　粉団 ダン

越前とも　毬桂 ケイ　楊の一実

桂 ケイ　毛桂 ケイ　とくとも

蕙子花 カキツバタ　芦のはまゝる　一一　くわよも　ゑのきづばさ

くわよも

むの花

菖蒲 シヤウブ　えびね草 むの毛　芋ほり草

牡丹 ボタン　サヨ草　多良草　富草草　ふくゝ草　ふくゝ草　ようひ草

芍薬 アフヒ　二ゑ草草　りろうず草　りろうず草　日傘草

麦 麦秋　麦植　麦の毛　麦の毛　麦の毛　麦の毛

芍薬の毛　芋掘の毛　芋引草 キンヒ　芋掘の毛　芋掘の毛　芋掘の毛

芋掘の毛　芋掘の毛　芋掘の毛

諸葉　草葉　大葉　毛〜で　みつで　玉葉　葛
芭蕉　芭蕉　芭蕉　芭蕉の葉　芭蕉の葉　芭蕉の葉
茨むし　牛蒡　蕗　雲実　竹の子　竹の子
初茄子　海棠　豆種る
相芋　新茶　古〜　夏切〜　鮎　飯〜　鮒〜　あゆと〜
一秋〜　少さうし〜　考藍本の蓮茶　松杉　桂　樫
ま〜　あ居　夏りと云　一夏　夏籠　夏ま入　〜書　〜行
〜花　百日り

六月

蕤賓律　芒種　夏至　中　仲夏
感夏　夏半　南訛　茂林　敦牂
蒲月　午月　皐月　鶉月　槽月
四季月　早苗月　早月　月ふた月
梅立月
丹生川上祭　一名　考証祭　日　山城　東照祭　日

神武月次祭　四月　都鄙祭遣　日　菖蒲　日
端午　艾虎　蒲人　赤虫　夜祭　懸立　少幡　代懸　曹紋　曹
除ける邪の倒なり今ゑ屠さり　菖の苔代　ひめ
人形　蒲刀　菖蒲　因脇名
日鉾　考
〜のかき〜　〜ぐ〜　むさうふ　〜〜湯　〜机　〜酒　〜の樂
〜太刀　〜ひく　〜〜湯　〜酒　〜ふ　栋の佩
あふちふく　粽　茲〜　篠〜　樹餅
六日のあやめ　考〜　角〜
藥日　四五日　藥湯　藥玉　〜のむ
除疫　七夕湯　藥草摘　〜〜刈　百草摘
続命湯　彩絲　さうきむ　続弦
彩閣祝　ある祝ま閣ると　百草を戰ひ
ゆうまそ祝て給ふ
百草合いろくめるまと　百草を戰ひ
合せ彩負はると　清祝　ある　左をのまもつひ　福の庵を祝
わるをひきりのる　左をのまもつひ　六日
ひふなり　賀義の旋馬　ケイバ　ゆぶさあ　きそひる
とせめて速速とと　水馬　五日　水中をるまてあ後
らふるなり　と年ふとめり
鳧車　月　祝のお後をひくをひ　生玉流物　五日
まもるなり
印地打
保勢山川祭　四八日　山田宮川まてあ
年は日　船をこまらるこ

十とりて祢佐よ
俗ふるなり

八阪祭 十五日 山城

札幌祭 十五日 石狩

熟田祭 サ月 尾張

有母の日 四月廿日 村上の宮忌日 此日社礼まで絶日俗奏なし

一始まりとも俗奏なくてふけまなもまとまるなり 俗て俗奏あるまなくとの心なりとぞ

住吉社田植 四月八日

山田社田植 日

大祓 二月日

住吉祭 日 摂津

八坂社樂洗 日

虎の涙雨 四月八日

新勝講 清水殿まて 月まくり

麦生 麦生より 十百めく

あはまくさ

丹後国与謝郡丹波国丹後国丹波国の古俗の文に菖蒲とも
ものとふ

菖蒲月雨 さつきあめ さつきやみ

の梅 つゆ 梅の雨 黴雨

梅松 梅つけ 麦の色つく梅 麦一 一つゆ 小一 もちー

の梅松 橘戸姫 海の緑雨

まるの松 松の色 ものとふ

諸木実 桃 枇杷 生姜 梅

まるの松 椒 素の実 樫ともも

諸木花 栗の花 棟の色 せんだん 楝の色 古木の棟

茅の一 一の陰 梔の色 梔花 梔の色 杜鵑花

梔の色 梔花也 もさくら 杜鵑花

胡桃 夏の花 桜の色 合歓の色

胡桃 蓮の色 ふるえ 黒鳥 胡めけー かりの子 とはー 時

鵜川 一祝 一縄 一の幕 ものとり とさんべく 一つふ 夜川

鵜飼 鵜飼 鵜の古 ぬえ の古

水鶏 秧鶏 ものとふ

多多の巣 浮巣 多多の一

蛍の巣

思射 大津さん さつをの一一 さつを 行人を云 さつをの一一

蛍狩 夏山の蛍 蛍 蛍

ゑー　ゑとりのー　ゐをんな　まこも　つゆのー
山田のー　古代のー　苗ふまり　田まとり
菖蒲　永き根
ーーのくきり
菖蒲　菖草　未摘草　ゐのもん
蓮の花　ゆり
ーーの枕　池のーー　金銀草　ほうせんくわ　ほたるぐさ
ゐのーー　ゐまも
蓴菜　下野草　山ーー　ゐまーー　天竺葵　姫ゆかり　切竹　ゆーーーー
蓴菜　ぬなはとも　蕣　ちさもの　ちさもも　蒐
夏菊　菊菜　玉簪　生薑花　四ひらのもも　蒐
蓮　ーー刈
未失掛　マタ夢
刈葱　おもと刈る　ゆーあり　桂蔚　秬ーー　花ー　切麻ー
栗ー　つぐら
蔓豆引　蔓豆　まこもげ　まこもを
蔓本焼　掛ゐの焼きを　掛ゐるもり
松茸　ゐ和蔓
悪をへ　白はへ　沖のーけ　ゐく　ゐゐれて　ゐゐて
ゐゐ　ゐゐ　ゐゐ　

江戸山王祭　早苗　蔵前祭　日　お祭

三社祭　四月十五日　伊勢祭礼　四月十五日

世田谷祭　四月　楊貴妃祭　四月十五日

住吉祭　日　加茂祭　四月中酉日

夏祭　大祭　今新暦六月廿五日より

雷乃陳　雷乃ち発なれむ大地の陽気動じて草木

なるなり　ものみな長じ

涼　日涼し　涼しき　門涼む　川涼む

夕涼み　夜涼み　涼しみ　涼み床

船遊び　楊貴妃　涼み

四條の涼　山城　四条より十八町まで

川の中に床をなすべし　紀乃一　加賀

てまくむ　なり

両国の涼　本所より二十八町　屋形船

住吉の涼　早船　競漕　住吉神社の例祭

を行なう　涼を倒

を用う　泉　一般　涼殿　寒

清み　一一　掬ぶ　一風　一水

一一と斗八　鞠なり　温風　風うなる

砂糖水　冷水　氷水　水の粉

井戸ばらひ　大雨ふり井戸を

清へる

夕立　白雨　にわか雨

雲の峯　一一の雲

炎天　日ばより

雲の峯　極暑　溽暑

の初の暑を

赤秋と云

三伏　夏至の後の第三の庚の日より初めて

立冬の日　中伏と云立秋

白日紅　さるすべり　さるなめり

清水の実　楊梅　林檎　早桃

麻　一引　麻引　麻

初の一一　麻のむ　さらす麻

夕顔　干瓢むく　干瓢

初の一一　麻の一一

撫子花　瞿麦　石竹　なでしこの

川辺一一　夜一一　浴一一

てらす一一　大和一一

まま　瓢簞　ふくべ

人生　ひさご

射干　かぶとあやめ　扇

清水花　夏椿　動木

雑草　樊噲草　赤芋　麦つみ草

川骨　泥鰌草　浦の花　虎尾草　浦の花　蒲の穂

日記　蓮の実　雁皮　蛇の花　盧舎那草　ゴ

蛇の花　屋敷

蓮　花蓮　蓮の実　蓮の花　蓮の実　中一一　蓮の実　蓮の花

つれなし一一　なでもの一一　なでもの花

井戸じゃ　井戸じゃ　井戸じゃ

あ合

雲霧の中の一　雨中の一　天泣一　荷の葉
霧を狐と狐　一実る夏なり　蓮花なり　蓮葉を
蓮なり　実を花と枯く

海松　みるめ　うくひすまつ

茅花の子　ちがやの子

清水　のぜう

茅花和布

蓮風一　夏草　杜の草　杜の山　庭の一一　庭の一一　庭の草の
ちのまのまき

菅を刈　菅を刈　蓮を刈　蓮を刈

竹の皮脱　南瓜　南瓜　ばうふら

瓜　蝉天　あまつ一　ひの一　糸一　干一

日雇

麻羽織一衣　麻浴巾　帷子　晒布　半ざらし一　生布　生布　をぐり一一　麻布　ちのぶ衣

浴衣　浴衣　浦一

ひとえもの一の種一羽織　赤りの

袷の衣　袷衣　みのむし一一　楮一

蟬一の鳴け　一の一ぐれ

上州紬　上州紬　四月中旬　日晴　八月中旬　紬糸又紡ぐ　紬糸又紡ぐ

夏虫　夏虫　夏虫　夏虫

鷹の羽を取る　鷹の羽を取る　鷹

初り雲雀　毛と天　今年鬼出

蟬　蟬　くつとむ一　蟬蟬　しゃう一

蟬

河まつとく　出たり

蝦　スクモムシ

狩餌実　ヨアヒウリ

挑鯛　カケタヒ

刺鯖　サンサバ　旧七月十五日　一一鯖を献ず

初鮫　スハシリ　江戸にて四月　月十五日にて

猟の網を打ちて海に仕掛る　出たり十六日より十五日と云　沖鯖　沖を漕ぎ出て鯖を釣る　海に仕掛る網を海に入れて魚を取る

料理仕様　料理仕様

落鰹　落鰹一　鰹節

鯖　大鯖の子　鯖の鮨

さるやうま鮨の魚など　貴しとの口

料理をまるをの方より

ちまの口漬

水飯　水飯　洗の飯　干飯　煮干一

黄酒

青麦　青麦

香稲揚

河内とる

扇　扇　扇を揆　白一　扇引一

団扇　団扇一一

雑子一　一ま　桂一

篠　篠　篠蓋　篠蓋　抓る　抱る　竹ぬ　竹ぬ

心太　ところてん

ろうそくの糸　ろうそくの糸　ろうそくの糸を結び人木を力を結び結ぶ結ぶ結ぶ

秋

少皡（白秋 西方）　金天（キンテン）　白藏（ハクザウ）　陰中（インチウ）

八月

夷則（イソク）律　立秋（リツシウ）　處暑（ショショ）中　孟秋（マウ）

桐秋（トウ）　素秋（ソ）　初秋　首秋　上秋

新秋　早秋　蘭秋（ラン）　明秋（メイケイ）　葉月

桐月　涼月　女郎花月（ヲミナヘシ）　文月（フミ）　ふみづき

氷川祭　一日　武蔵　少郎祭（キタノ）　四日　山城　大多祭（オホトリ）　十二日　和泉

男山祭　十五日　山城　鹿島祭（ナワ）　十四日　常陸　名和祭　日　伯耆

三角祭　十五日　伊豆　鹿角祭（カシマ）　十八日　武蔵　香取祭（カトリ）　廿八日　下総

鍾馗祭（カマクラ）　日　相模　藤島祭（フジシマ）　廿五日　武蔵　諏訪祭　廿五日　信濃　諏訪祭　十五日　信濃

七夕　七日　はつたなり　祝洗　机洗　七夕嘗　星の夕　織女　洗ふ　はつたなり　祝洗　二星　星の夕　星の契　二星　とし一度　大祖星　牽牛　織女　女七夕　星の契　二星　とし一度　大祖星　牽牛　織女　さらし布　百布祭　初七夕　たなばたの祭　もとりひめ

七夕ひめ　梶の葉祭　秋さり花　天の川　星河　銀河　天河　銀漢　天河　銀漢　天河　銀漢　天の川　汐まつり　星河　天津　天津　星合の淵　川つゝみ　彦星の橋　鵲の橋　鳥船の橋　星の橋

紅葉の橋（モミヂ）　素戔嗚（ソマムカヘ）　紅葉　紅葉の錦　紅葉の衣　紅葉の袖　紅葉の雲　紅葉の雨　紅葉の雨　紅葉の雨

初穂のこと　乞巧奠（キツカウテン）　乞巧奠　庭の三琴

七夕の紅　星の夕　七夕の前　七夕の前　七夕の前

古茎　芋がら　むくの人火　雲母　雲母の桐　玉桐
桐種　ふの実　蓮の茎　蓮花　蓮の茎　根芋　枝豆　まさきげ
ひの栗　まめ豆　まめ柴　まめ柴　まめ桃　荒尾芋　栗種
稗種　粉種　瓜のる　夢中の牛　まめ榧　みけ玉結
をうらうの若　をうらうのもこと　まうこは　水の米
中元　四十五　三井寺安流　四十五　為女祓剪
蛭子踊　山伏　岩倉　ゲガキ　百雷の絵　煙木流
題目踊　山伏　松ヶ崎　イキミ　グマ　生首霊　父母と結ぶ人十五の蓮の飯
さう結ぶ　親をあ親をりてなほ云
蛭子　きりと　ほけ——　花——　嘉——　うら——　まは
丸——　丸——　永——　初の——
扇ひく　壬生狂　ヒキ　鳴鹿茶　四十五　鳥のつと　四伊勢　山田
ひとり火　廣り火　大文字
ひくの長（芭蕉）と結ぶ
又彼岸の入てつけとのたりとも云
毛蟹　毛蟹　松の傷も
四法　西方　永形
踊　山町——　うけ——　きとり——　つせ——
踊　松坂——　高野山　をどりあ　約ちー　相撲　こちつひ
出——　ふとり　ふとり——　ふ服　花火　正月ちり
山結　約日　古結へ
鰐　九月廿日
鳴吹　山伏　ほらを　ことうんとてあを今せ
地の時　ひまぬを　ちちなり

杜鵑虫　とんぼう　やんま　きとんぼう　夕顔の別名　去へ
あとんぼう　鬼とんぼう
虫　——の声　——の声　ひとりあと
うつくしぬと　秋ちちへぬなり
蜩　ひぐらし　ひぐらしも　秋なり
松の——　山の——　蟬　いなごまろ
蕣　槿　つれなせ　昭憐　ぶくぶくぼうしぶくぼうしと
まつむし　蟲なる　ふとちと雅
虫擬　虫合　——蕣　協部　つれむしり
蕣虫鳴　ふこひ——となく　つれーり
たぐ蕣ちと斗ち　雑
蓮の虫なくも
なく虫　あとの——鳴
ひとりつて　ぬと雑
活虫　松虫　人まつ松　秋の蛍　蛍の雲を　結ひ秋へ
いろくの——ムシ　芋虫　ろ長虫　蟬法　蟬虫　秋の蝶　秋の——
蟬切　怪織　蟬切なく
蜀漆ち
田の虫芝る　一茎　桐の——ちり
桐の——ふ
桐の——ちり
桐の——ちり
桐の——ちり

撫花　はちす　りけとも　撫子の異名　蘭　らん　ひるがほ

芭蕉　早稲　わせ　もろこし　わせ　ほくこの早稲　わせの　つるまめ

まんじゅしゃけ　しゅしゃ　ひとも　いつも　あつ　日ど　行ろも　ミまめと　猫の利力と

蓮の実　はす　はすの　ミと　はすの　ミと　蓮根　はすね　はすの花　はすの葉　はすの茎　はすの葉　はすの花　はすの葉　はすの茎　はすの葉　はすの花　はすの葉　はすの茎　はすの葉

生国魂祭 九月廿五日 四面祝 四月廿五日 櫻井祭 四月廿四日

白髭神社祭 四月廿日 月見 四月十五日 茅渟の海辺にて茅渟を求めし日なり

住吉祭 十月廿日 八幡祭 八月十五日 八月十五日 住吉の浜に行ふ 山城石清水 豊浦

――――――――――――――――――――――――――――――――

――――――――――――――――――――――――――――――――

――――――――――――――――――――――――――――――――

死罪祭の祭 四月廿日 断獄刑法を定めて死刑を行ふ 死罪祭

の名を定めたり 釋奠 三月廿日下丁日 釋奠祭

四月七日 神武の祭 神武天皇の祭 神武天皇大和橿原宮に即位し給へり

豊国祭 八月十日 豊国祭 十月十九日 白米祭 米俵を献ず

井伊直弼祭 安政五年三月廿日 桜田雪祭 桜田雪祭 門

日蓮祭 十月十三日 紀伊 国祖祭 門 西浦祭 四月十日 山城

名月 四月廿五日 月 三月十五日 名月 三月十五日 月 三月十五日

夕 九月 三月十五日 居待月 四月十九日 神待月 四月廿日 寄月 三月十五日 臨月 三月十五日

――――――――――――――――――――――――――――――――

――――――――――――――――――――――――――――――――

――――――――――――――――――――――――――――――――

鴈（カリ）

稲負鳥（イナオフセ）

鹿（シカ）

鯉（コイ）

鮒（フナ）

鯉（コイ）

鮒（フナ）

鯉（コイ）

鮒（フナ

十月

盛秋　暮秋　深秋　晩秋　初秋
五位　末秋　紅樹　季高　末秋
深秋　殘秋　玄月
長月　紅葉月　小田刈月　本深月　長夜月
正憶四の奏　四七日　喫法事の四の日の孫亡の事を回紙をしてを紙をしてのしてなり
赤男祭　七夕　泉涌寺　金剛力士像
桂男和撰　四八日　碧碁　四八日　大佛
古者文祭　日　嶽伏見　重陽　四九日　菊酒　菊見　菊花　菊酒　菊見
菜茱萸　菊花　菊瓶　菊見
茱萸帽　菊の宴
九月の神　菊まくれ　菊まくれ
秋の雛　碁の雛　碁の雛　碁の雛

上　〇三十

秋　水ー　古河ー　秋の末ー　末集
本ー　山秋　末の浦ー　あり秋　末集

秋の名　うつしやま　秋ーー
山屋の色　山屋の色　もみぢ
苗者の実　芋　紅ぶり　ーぶり　こー　むー
小ーあり　まのさ　ーのさ　ー加
蕃　蕃薯　蕃薯　甘蕃薯
甘芋　烏瓜　琉球蕃　琉球蕃
正月　あんば　鬼灯　海人草　海人草　海人草の花園
芙蓉　木ーー　芙蓉　芙蓉ーーの色　芙蓉ーーの色
芙蓉　芙蓉　芙蓉
芙蓉　芙蓉　芙蓉
芙蓉　芙蓉　芙蓉

木枯　四九日　七六月百　山城
白川　四十日　山城　倒都　日
後の月　四十三日　十三夜　三夜月　月の名所　栗名月　月の名所
住吉の市　日　住の市　六月の市と同　日蓮法華の祭　四十日
天王寺　四四日　大阪　石切　十五日　大和　岩倉　四十日　山城少
一夜酒　日　酒日　小倉　日　祇園祭　日　京
墨染　四十日　山城
度会新嘗祭　四十日　加文　孔雀使　勅使
伊勢古墨遣　四十日　十七日　廿八年月　倒都　十日
初使　十日　十五日　十五日　十五日
昔作　十五日　摂津国住吉
波利　四十五日
大麦　四十五日　牛　四十五日　山城
鹿谷　四十四日　山城
天満宮　日　山城

下鴨　四十日　山城
栗田口　日　山城
日蓮法華の祭　四十日

水仙　四十三日　山城　清荒　四十七日　大阪　鳴滝　四十日　山城
崔塔　尾張の鶴　鶴数　四十日

[illegible]の実　[illegible]の後　色[illegible]
[illegible]も枝[illegible]を結ても枝
枝　柿　柳　柳　柳　柳　柿の　柳　柳　柳
村　[illegible]　水の　川の　柳　浦　[illegible]
名木　[illegible]を結ても枝
[illegible]

[illegible]の実
[illegible]
[illegible]の実　柾
[illegible]の実
[illegible]の実　[illegible]の後

栗　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]

柿　熟　[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]の実　柿の実　桂の　柳　柳　柳　柳　柳
[illegible]の　果実　柳　柳　柳　柳　柳
[illegible]　つぶ　仏骨島　国衆　せんぐんの　柳　柳
[illegible]　[illegible]　柳　柳　柳　柳
[illegible]　菩提子　柳の　新柳の　柳　柳
柳接　柳柳　[illegible]　ひょん

富士柿　[illegible]

雲樹橘　柑子　佛手柑　枸

枸〜〜きる

仙夢　芭蕉の種　芭蕉破　男色

佛甲香　小菖花　牡丹

菊夷　菊菊乙　菊枝

菊〜〜　茄

う〜〜柱　神山の石　石のみ〜さ　もみぢ　神山のみ〜さ

柱神山　石神山　紅葉の色　錦の色　夏蝶の羽

流れる神山　柱神山　あ石を結ても結ん

蹴鞠　ぐんどう　はまちり

菌　茸　くさびら　松茸　椎茸　しめじ　いんち

瓶〜　すり鉢〜　石臼〜　〜ぐり　樽〜　平〜　初〜　松〜

きつね〜　ちく〜　松茸　茅巻柱　を神柱る　として

も結なり

尾花ちる　尾花ちる　薄ちる

羊歯　女郎花　田蓑　金目貴　菊〜　金　石菖

杉羅　銀盃　ねの　柔葉　蓮〜　玉盃　月盃　酒盃　砂金　月盃

黄〜　黄〜　茅〜　紅〜　穂〜　程くい　白〜　こぼれ〜　袋〜

をとめ　茅原　茅原　ちぎれる　石松原　たい　松〜

ひの茅　〜瓶　〜のきせる　〜くさね　そのさく　巫わ〜　〜ハ

そのひとの石　〜ひ　作り〜　〜ひ　せ〜　とろまく　稗さる　〜なり

そのひとハ節遠と為曲とかりるる秋を伝る名和〜とい

なりとぞ古法云　法師れとく〜に男を

おくる菊　信〜　十月の〜　〜〜の月とのあ〜　〜ナ月の菊な

ると所和年作より思ふ　ふ古法回寄法師まで

清菊　万年青　花と毋菊

男色

漆紅　〜かえとも

蹴夏　ぐんどう　はまちり

秋蕎麦　秋酒　古酒　中〜〜

きく酒　葡萄酒　秋〜〜　あ〜〜めざけ

りんご　蔦蘿蔔

小鱸　江鮒　松の堺　番紅　紅葉の鮒

浦まみ　の西海を渡て江戸へ入ば女をなぐさ

一番紅　二番紅　三番紅　四番紅のまゆ　浜中町〜〜て

びを争ひ〜　わさ出樂を振へ〜ろぎ　紅の

ちや〜〜〜

十一月

応鐘 律 立冬 黄 小雪 孟冬

折木 本調 橙陽 初冬 初冬 初冬 早冬

交冬 上冬 春心 虹蔵 始氷

正陰 陽月 小春 臘月 春陽の月

一之月 初雪月 小雪月 神無月 伊勢冊子に神なし

神無月 一日 神の旅 神の留守 神集 神を送り下る

神送り 二日なり 七夕祭 先仁てい

日蓮法華経供 四日 十羅刺供 四日より十者まてなり

法華山忌 十七日 山塚

東福寺開山忌 四十六日

夫保 四日 法華の高人家にて為る故なり 拝 惠雲院開堂夫なり

下元 四日を云

法勝寺大会 四日 八日

結魂祭 廿三日

新嘗祭 廿三日 八百万神に新穀を供しまつるなり

神之風 冬の方風なり

月呼 冬の月 冬月

霰 時雨とも 初霜 村雨 片雨 川霧の雨 松風の雨

霙 雪の雨 雪交の雨

霰 入梅 三月の梅雨 十月の雨なり

霜 初霜 霜降 霜降なれば初霜なれ

初雪 雪降なれば初雪なれ

冬籠の神 冬を守る神

ちつ形

枯野 冬の野 冬の野 冬の野 冬の野 冬の野

巨燵切 巨燵

塩開 塩 田塩表

炭焼 炭

細代（アジロ）　ーーちー　ーー本　ーー人

生漬　竹笥（タッペ）　川漬のーー

炭（スミ）　ー竈（カマ）　ー焼（ヤク）　ー灰　ー俵　長ー　進燈炭　唐の式なり

田ー　素炭屋　白炭　鍛ー　ー園（ソバン）　明ー　ー火

楊ー　佐倉ー　出羽ー　桂ー　杉ー

熊胆ー　獣ー　縫ー　ー水ー　火箸（ヒバチ）ー　桐ー

楮（ホタ）　田舎にて大なる木の根をあらうてくべて薪にもちゆ消ぬやう

あぶりーせ　ーの炭　ーらぶる

蒲鉾（オチバ）　蒲ちなし　くちなし　ーのしぼり　蒲ちの炭

木ちの白　木のしを衣　木のしの舟　蒲ちの舟　木のしの舟

川のーー　柳（ヤナギ）ー　萩（ハギ）ー　蒲（スギ）ー　萩（ヨキ）ー

菊ー　枯尾（カレオ）む　枯芦（カレアシ）

麦蒔（ムギマキ）　弟木（イサキカ）枯る　歌（シ）ー

干菜（ホレナ）　干大根　干

沈丁　水蓼　つゝぢ　ゆうぶり　列ち

蓼（ヨシ）　ーの金（フスマ）　畠（オモヒハ）　ーの場（ツルバ）

ちりくち　零（ウヒヒス）の子ちり　さぶ　鰤（ブリ）

鰒（フグ）ー汁　河豚（ファ）

河魚（ヒラ）　ーーの仮　鮒（イサ）

生海苔（ナマコ）　きんこ　このこ　とらこ

玄桔（ゲンチヨ）　ものこの俵　四和尖の日　孔ちなく

ちあるとすれちすりなる紙の藤葉

茶（チヤ）の日　茶の日　茶の日　茶の日　茶の日

茶の日　茶の日　茶の日　茶の日　茶の日

茶の日　茶の日　茶の日　茶の日　茶の日

茶

十二月

黄鐘律　大雪　冬至　仲冬
周正　霜晨　成冬　芸生　季冬
陽復　器物　星紀　氷壯　青帝
子月　玄月　暢月　復月　雪月
天寶　祚響　雪隆月　雪之月
雪月

翔旦冬至　四十日　十一月廿日冬至より十五日目なれば三十日なり
一陽佳言　十月廿日冬至より陽来復と云
星琴の歌を聞てらのもとなりと是
星ことあるしるし云
岐く後を知る　芸岳新見世　四月　宮廷長　四月
祚叩　つけ鉦を叩きて踊るなり　髮垂　四月
袴曳　四月　大河篠　四月　鞆恩篠　一月七祖
四月十一月廿日の印新なるよりかくて七月の月天
法ヲ以て廿日の印新なるよりかくて七月の月天
法ヲ以て廿日の印新なるよりかくて七月の月天
法ヲ以て廿日の印新なるよりかくて七月の月天

大師篠　四月　星祚樂　北中の印の祚樂を吹く――
高祚あそびの興ひ　早苗　採物舞　榊
枝笹　ちり　祚　ひさご　法ーまき　蘿　四月の糸
星琴の歌を聞てらのもとなりと是
大前張　本踏しで　踏波清　さいたり　ーなる取
みなの妻姫　蓄　法あけ
小前張　うち枕　ちづや　さーなし　夕月取　あけまき
ちづや　きりくす　うろつき　ひろつき
加祚興　きくりと　とくぜまと　夕月取　河原舞
星流ふ　ひろあ　弓玉　鈴鹿　を鈴　ひろ祚
樂舞　ひろあ　ーつ　ーつ　ーつ
ーつ　ーつ　ーつ　ーつ　ーつ
法社ーて　行ふ　つーつ　ーつ　ーつ　ーつ　ーつ
四月　ーつ　

東三條神樂 四月卯

平野祭 四月申 素戔嗚祭 日 南殿祭 日

日吉祭 日 松尾祭 四月卯 吉田祭 四月中

日吉隈祭 四月酉 賀茂祭 四月酉 平川祭 四月酉

園韓神樂 四月丑 ハ月の初れ鼓会の日より自ようて毎夕ようむづし その時高くのまをのて後ハ一

雪 ちのむ 雪のむ ちゝひ〜雪 ちから雪 五の雪

一つぶて 一てう 一丸め 一佛 一だるま 一わてん

たひ〜 一 物ゝ 一女 一の肌 一やけ 一うさ

一の乳 沈一 つぶ日き ちぶれす 一くき 一ろう

雪車 雪のとをとる車なり 雪〜まるき 横 りき

ちりとも

る雪と風の吹立ち後又元に日ろ吹迫 数あこゞ長 谷ろなと

そもそも人死れ ふきとふれとらふとそ

吹雪 一一ふん 雪を風の吹立るなり 雪花平 ふゆそて雪

雪を風の吹立るなり の涙をとを

うものなり 梶 雪巻ともふ雪 雪 雪のまゞ

うものなり の上をあるくもの

霰 むー 氷柱 銀竹 凍 つめたき さむ元

氷 うすゝひ ひつー ひも 氷 冴ものを

雪 氷るもを 氷ゝうるもを 氷ゝうるもをなり 雪 若雪 羽衾雪 ちるを

ちのもと 松ひ合 ひ年 まゝちの

ゆきちー 裡をまちる 敷雪 若むなり

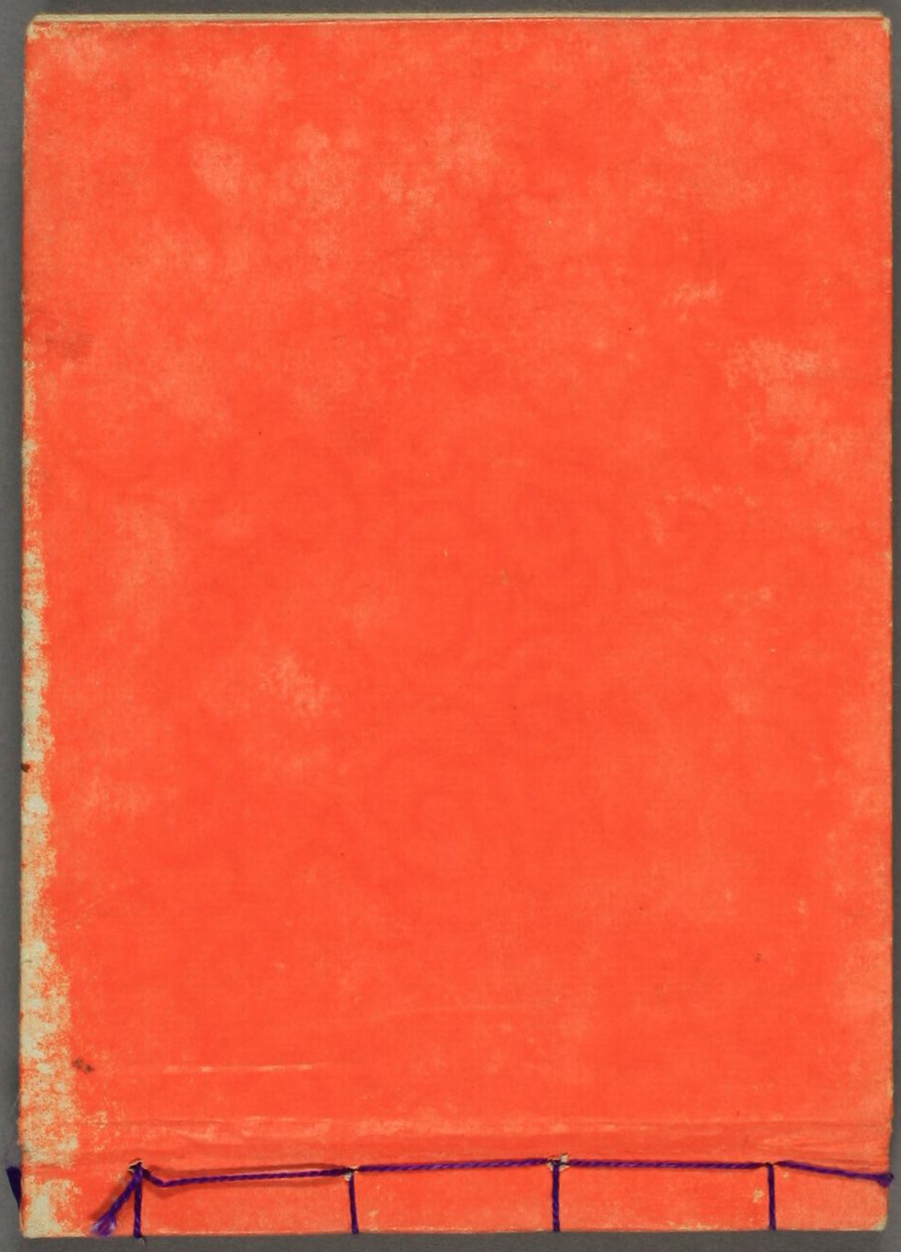
鷹 ちー 一鷹 一隼 大一 尤一

米一 ちー ちー 一犬 一西 隼 鷂 ちー

一羽 ちの 羽 ちの 羽 ちの

とろろ　ーハエラと蓋
ちり
水仙　全盞相春
薑川　新生姜
葱　わぎ　ひとすぢ
玉子酒　生姜ー
鮭煮汁　そば湯
水潦
茶粥の設
年の市　歳暮市
年とりのふろ
煤はらい　ー拂
榊うる　榊ひもの
星佛うる

ー　ー　ー　

新撰
俳諧 明治歳時記草稿 巻の上 終

中村俊定文庫